

修士論文（要旨）

2024 年 7 月

新型コロナウイルス拡大により緊急帰国した JICA 海外協力隊の
日本語遠隔授業の動機づけ
—PAC 分析を用いた日本語教育隊員への調査結果から—

指導 齋藤 伸子 教授

国際学術研究科

国際学術専攻

グローバルコミュニケーション実践研究学位プログラム

222J1004

松田 智子

Master's Thesis
July 2024

A PAC Analysis of JICA Overseas Cooperation Volunteers' Motivation
to Teach Remotely Following Emergency Repatriation Due to COVID-19

Tomoko Matsuda

222J1004

Master of Arts Program in Global Communication

Master's Program in International Studies

International Graduate School of Advanced Studies

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Nobuko Saito

目次

第1章 序論.....	1
1.1 研究の背景.....	1
1.1.2 JICA 海外協力隊の概要.....	1
1.1.3 日系社会青年海外協力隊の概要.....	2
1.2 研究の目的.....	2
1.2.1 教師の動機づけの観点から.....	2
1.2.2 JICA による隊員への支援体制の観点から.....	3
1.2.3 ボランティア活動の形態についての観点から.....	3
第2章 先行研究.....	4
2.1 動機づけの定義.....	4
2.2 動機づけに関する研究.....	4
2.3 第二言語習得における動機づけ研究.....	5
2.3.1 第二言語としての日本語の動機づけ研究.....	6
2.4 教師の動機づけの定義.....	7
2.5 教師の動機づけに関する研究.....	8
第3章 調査概要.....	10
3.1 調査協力者.....	10
3.2 調査方法.....	10
3.3 調査手順.....	11
第4章 調査結果および解釈.....	13
4.1 結果概要.....	13
4.2 教師 A のクラスター分析.....	13
4.2.1 分析結果.....	13
4.2.2 教師 A 自身によるクラスター解釈.....	15
4.3 教師 A の動機づけに関する考察.....	18
4.4 教師 A に関する総合考察.....	19
4.5 教師 B のクラスター分析.....	19
4.5.1 分析結果.....	19
4.5.2 教師 B 自身によるクラスター解釈.....	21
4.6 教師 B の動機づけに関する考察.....	26
4.7 教師 B に関する総合考察.....	27
4.8 教師 C のクラスター分析.....	27
4.8.1 分析結果.....	27
4.8.2 教師 C 自身によるクラスター解釈.....	29
4.9 教師 C の動機づけに関する考察.....	33
4.10 教師 C に関する総合考察.....	34

第 5 章 考察.....	35
5.1 教師 A・教師 B・教師 C に特有の動機づけ.....	35
5.2 教師 A・教師 B・教師 C に共通の動機づけ.....	35
5.2.1 「学習者」について.....	35
5.2.2 「授業」について.....	36
5.3 「日本語教師としてのスキルアップ」について.....	36
第 6 章 結論.....	38
6.1 教師の動機づけの観点から.....	38
6.2 JICA による隊員への支援体制の観点から.....	38
6.3 ボランティア活動の形態についての観点から.....	38
第 7 章 終章.....	39
7.1 振り返りによって見えたもの.....	39
7.2 JICA への提案.....	39
7.3 オンライン授業の可能性.....	40
7.4 3 名の現在について.....	40
7.5 本研究の意義.....	41
7.6 今後の課題と展望.....	41
7.7 おわりに.....	42

参考文献

資料

2019 年 12 月に発症が報告された新型コロナウイルス（COVID-19）の影響により、国際協力機構（JICA）は、派遣中であった JICA 海外協力隊の隊員全員を帰国させた。

この非常事態の中、派遣先であったブラジルの日系日本語学校の日本語学習者に対し、自主的にオンライン授業を行い任期終了まで継続した日本語教育隊員がいた。本研究では、オンライン授業を行っていた 3 名の元日本語教育隊員（教師 A、教師 B、教師 C）の協力を得て、オンライン授業を行い任期終了まで継続した動機づけを明らかにする。また、今後の非常事態における JICA の隊員支援体制の改善に対する提案、さらにボランティア活動の形態の検討を目的とする。

調査は内藤(2002)に従い、PAC 分析の手法を用いて行った。PAC 分析の手順は、刺激文から自由連想で思いつくものを書き出し、それを重要度順に並び替える。それぞれの自由連想の項目同士を直感的なイメージでどの程度近いかを 7 段階評価で評定する。評定の結果得られた比類似度行列を、R (4. 2. 2) でクラスター分析にかけ、デンドログラム（樹形図）を作成する。作成されたデンドログラムをクラスターに分け、クラスターごとにイメージや解釈を語ってもらう。

3 名の元日本語教育隊員に PAC 分析を行った結果、教師 A は連想項目（例：整理がつかなかった）が 22 で、クラスターは【授業に対する熱意と自己への興味】【自信と次へのステップ】【関係者の要望とクラス運営への責任】【隊員アイデンティティの確立と同期隊員とのつながり】【複雑な心境の整理】の 5 つとなった。

教師 B の連想項目（例：初めてのオンライン授業）は 21 で、クラスターは【日本語教育分野と自身の可能性の広がり】【授業への向上心と学習者の成長】【指導スキル向上の充実感と人生の自由度の高まり】【やり遂げることの責任と自己満足への終着】【日本語教師としての義務と責任】【主体性の活性化】の 6 つとなった。

教師 C の連想項目（例：教える能力低下を抑えたかったから）は 20 で、クラスターは【健康的な心身を保つための生活習慣】【コロナ禍における学習者のためのオンライン授業】【元の派遣先に戻るための行動】【将来のための日本語教師スキルの維持と向上】【日系社会と日系アイデンティティへの支援】【ブラジルに戻ることに備えた準備】の 6 つとなった。

上記の調査結果から、教師 A は「自己探求」、教師 B は「スキル向上の充実感と達成感」、教師 C は「日系社会への想い」についてが特有の動機づけであり、共通の動機づけは「学習者」「授業」「日本語教師としてのスキルアップ」についてであった。

以上の分析から以下の結果が得られた。

それぞれ特有の動機づけがあったことから、日本語教師や隊員としての意識に相違があり、それぞれの価値観や経験等に基づき、オンライン授業を遂行するに至ったことがわかる。一方、共通の動機づけがあったことから、3 名は共通意識を持ち合わせていたと考えられ、その共通意識によりコロナ禍という非常事態にも対応できたといえる。共通の動機づけは、日本語教師から見た「学習者」、日本語を教える「授業」、将来を見据えた「日本語教師としてのスキルアップ」についてである。これらは、日本語教育に関するものであり、日本語教師としての資質と関連すると考えられる。さらに、コロナ禍という非常事態にも対応できた資質と関わりがあるともいえる。

JICA による隊員への支援体制の観点からは、教師 A が「倦怠感」、教師 B が「空白」、教師 C が「無秩序な感じ」と表現したように、3 名共に状況への不安定さを感じていたことがわかった。また、教師 A と教師 B は規定通りの 2 年間に満たない派遣であったことに対しての引け目を感じていたことが窺われた。この状況下においては、JICA として隊員一人ひとりの援助ニーズ、また個別の具体的な状況に応じた支援方法を探るため、これまで以上に隊員の声に耳を傾けることが求められる。

ボランティア活動の形態についての観点からは、教師 B はオンライン授業によって学習者の日本語能力の向上がみられたと語り、教師 C は旅行先との中継で学習者が「楽しんでいた」「喜んでいて」と語っていた。このことから、両者とも日本語教育の支援が少なからずでき、離れた場所からの支援についての足掛かりを得たと感じていたことがわかる。今後、JICA 海外協力隊の国際的貢献がより強固になるよう日本語教育だけではなく、分野を広げたボランティア活動の形態についての検討を期待したい。

今後もコロナ禍のような非常事態が発生する可能性があることを考慮すれば、本研究で明らかになった共通の動機づけを踏まえ、動機づけ理論に立脚した教師教育プログラムの開発や介入方法の検討が必要であるといえる。

本研究を通し、3 名がオンライン授業を行ったという事実を残すこと、彼らの隊員また日本語教師としての意識と行動の一部について明らかにしたことに意義があると考ええる。

参考文献

- 文化審議会国語分科会(2019)日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版
http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/r1393555_03.pdf
(2021年4月30日閲覧)
- 文化庁(2019)日本語教育の推進に関する法律の施行について(通知). 2020年, 7.
- JICA(2020)新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえた JICA 海外協力隊の対応について. JICA HP. https://www.jica.go.jp/information/info/2020/2020_0423_01.html
(2023年6月1日閲覧)
- JICA「JICA ボランティアの事業概要」
<http://www.jica.go.jp/volunteer/outline/> (2024年5月31日閲覧)
- JICA「海外協力隊派遣実績」(2023年6月1日閲覧)
<https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/results/jocv.html>
- JICA と中南米日系社会
https://www.jica.go.jp/Resource/regions/america/ku57pq0000207h3natt/pamphlet_201903.pdf (2024年6月2日閲覧)
- Our World in Data2021
<https://ourworldindata.org/coronavirus/country/brazi> (2024年6月2日閲覧)
- UN volunteers (online) Online Volunteering Service. UN volunteer Web site.
<https://www.onlinevolunteering.org/en> (2021年5月2日閲覧)
- UNESCO.Responding to COVID_19:Education in Latin America and the Caribbean.
<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000383468> (2021年5月2日閲覧)
- 赤井誠生, & 安藤明人. (2013) *最新心理学事典(動機づけの項)* 平凡社 548-549.
- 石井秀幸. (1993). 日本語学習者の学習意欲を構成する因子の分析. 平成7年日本語教育学会春季大会予稿集, 1-6.
- 市川伸一. (2001). *学ぶ意欲の心理学* (Vol. 171). PHP 研究所.
- 上淵寿, 大芦治. (2019) *新動機づけ研究の最前線*, 北大路書房
- 郭俊海, & 大北葉子. (2001). シンガポール華人大学生の日本語学習の動機づけについて. *日本語教育= Journal of Japanese language teaching/日本語教育学会学会誌委員会編*, (110), 130-139.
- 鹿毛雅治. (1994). 内発的動機づけ研究の展望. *教育心理学研究*, 42(3), 345-359.
- 鹿毛雅治. (2013). 学習意欲の理論: 動機づけの教育心理学. (*No Title*).
- 鹿毛雅治. (2018). 学習動機づけ研究の動向と展望. *教育心理学年報*, 57, 155-170.
- 金川悟, & 藤生英行. (2009). PG087 教師のモチベーションに関する研究(1): 教師のモチベーション尺度作成の試み. In *日本教育心理学会総会発表論文集 第51回総会発表論文集* (p. 697). 一般社団法人 日本教育心理学会.
- 金子智昭. (2019). 教師の動機づけ研究の動向と展望: 教育心理学的観点からの考察. *慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要: 社会学心理学教育学: 人間と社会の探究*, 88, 69-91.

- 倉八順子. (1992). 日本語学習者の動機に関する調査—動機と文化的背景の関連. 日本語教育= Journal of Japanese language teaching/日本語教育学会学会誌委員会 編, (77), p129-141.
- 小林由子. (2016). 日本語学習研究における「内発的動機づけ」の再検討. 北海道大学国際教育研究センター紀要, 20, 81-92.
- 小森和子, & 玉岡賀津雄. (2012) 研究社日本語教育事典 (動機づけの項) 研究社 89-90.
- 佐々木恵理. (2014). 教員養成課程におけるレジリエンス育成の適用と展望. 岐阜女子大学紀要, 43, 119-127.
- 澤 恩嬉. (2018). 交流型遠隔授業における教師の役割 : 日本語学習者と日本語母語話者の継続的なつながりを目指して. 東北文教大学東北文教大学短期大学部教育研究 = Educational research of Tohoku Bunkyo College, Tohoku Bunkyo Junior College / 東北文教大学東北文教大学短期大学部 編. (8):2018. 3, p. 59-69.
- 志賀玲子. (2021). 「文化多様性を理解し尊重する態度」についての一考察: 日本語教師養成担当教員への PAC 分析を用いたインタビューを通して. 一橋日本語教育研究, (9), 47-60.
- 島田英昭, & 三和秀平. (2020). 動機づけ理論からみたオンライン学習の継続性. コンピュータ & エデュケーション, 49, 27-33.
- 清水順, 植田麻実, 石川智仁. (2005). 文献からみる第二言語習得研究, 開拓社
- 白石智也, 齊藤一彦, 山平芳美, & 下宮秀斗. (2020). COVID-19 感染拡大に伴い帰国した青年海外協力隊員の実情: 体育科教育の普及に携わる隊員に対するインタビュー調査より. 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要. 教育学研究, (1), 266-274.
- 末森咲. (2019). 英語教師の動機づけ研究における現状と今後の展望. 外国語教育メディア学会関東支部研究紀要, 3, 1.
- 瀬田和久, 村上正行, & 後藤田中. (2020). 解説特集「レジリエントな学びを支える実践的取り組み-新型コロナウイルスへのオンライン授業対応-」. 教育システム情報学会誌, 37(4), 236-238.
- 田村知佳. (2011). ドイツ語圏日本語学習者における内発的動機づけ : 短期留学生を対象としたインタビューで語られた学習への「楽しさ」からみる.
- 田村徳子. (2021). コロナ禍におけるブラジルの学校教育—その基盤にある学校観—. 比較教育学研究, 2021(62), 114-130.
- 寺尾香那子, & 中谷素之. (2019). 教師の内発的動機づけが学習者の期待形成および内発的動機づけに与える影響. 日本教育工学会論文誌, 43(2), 117-125.
- 内藤哲雄. (1997). PAC 分析の適用範囲と実施法. 人文科学論集, 31, 51-88.
- 内藤哲雄. (2002). PAC 分析実施法入門:「個」を科学する新技法への招待.
- 中村幸子・澤恩嬉(2013). 大学教育における遠隔授業の目的とその実態『東北文教大学・東北文教大学短期大学部 教育研究』第4号, 43-51
- 成田高宏, & ナリタタカヒロ. (1998). 日本語学習動機と成績との関係-タイの大学生の場合. 世界の日本語教育. 日本語教育論集, 8, 1-11.
- 新館啓一, & 松崎学. (2010). 教師の PAC 分析による自己成長の振り返りの研究. 山形大学教職・教育実践研究= Bulletin of Teacher Training Research Center, Yamagata

- University*, (5), 35-46.
- 西田理恵子. (2022) 動機づけ研究に基づく英語指導, 大修館書店
- 縫部憲源, 狩野不二夫, & 伊藤克浩. (1995). 大学生の日本語学習動機に関する国際調査-ニュージーランドの場合. 日本語教育= Journal of Japanese language teaching/日本語教育学会学会誌委員会 編, (86), p162-172.
- 野口康彦. (2014). 質的研究におけるインタビュー方法としての PAC 分析の有用性: KJ 法との比較から. 茨城大学人文学部紀要. 人文コミュニケーション学科論集, (16), 33-44.
- バーナード・ワイナー著/林保, 宮本美沙子監訳 (1989) ヒューマン・モチベーション: 動機づけの心理学 金子書房
- 林さと子. (1998). 第二言語としての日本語学習および英語学習の個別性要因に関する基礎的研究. (No Title).
- 廣森友人. (2006). 外国語学習者の動機づけを高める理論と実践, 多賀出版
- 福田倫子, 小林明子, 奥野由紀子ほか. (2022) 第二言語学習の心理 : 個人差研究からのアプローチ, くろしお出版
- 丸山千歌, & 小澤伊久美. (2007). 日本語教育における PAC 分析の可能性と課題—読解教材を刺激とした留学生への実践研究から— WEB 版 『日本語教育実践研究フォーラム報告』.
- 宮武香織. (2021). 新型コロナウイルス禍での遠隔授業におけるグローバル体験の効果と可能性について. 九州国際大学国際・経済論集, 7, 41-53.
- 三和秀平, & 外山美樹. (2021). 教師の教科指導学習動機は小学生の自律的な学習動機づけと関連するの—自律性支援を媒介要因として—. 教育心理学研究, 69(1), 26-36.
- 村上京子. (2005) 新版日本語教育事典 (学習動機づけの項) 大修館書店 711-712.
- 村上正行, 浦田悠, & 根岸千悠. (2020). 大学におけるオンライン授業の設計・実践と今後の展望. コンピュータ & エデュケーション, 49, 19-26.
- 守谷智美. (2002). 第二言語教育における動機づけの研究動向.
- 山下真裕子, 甘佐京子, & 牧野耕次. (2011). レジリエンスにおける心理的ストレス反応低減効果の検討. 日本精神保健看護学会誌, 20(2), 11-20.
- Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2021). Teaching and researching motivation. Routledge.